

寺泊港 (三島・寺泊町)

■環境：海岸
■対象：一般
■期間：1月中旬～3月上旬

寺泊港は古くから港町として栄え、広い港湾には荒波を避けてカモメ類や海ガモ類が集まる。冬の日本海の幻想的な美しさにはファンも多い。

〈厳冬の日本海は荒々しく海鳥が舞う〉

冬季の日本海は荒々しく、躍動的。港の周囲は頑丈な防波堤が築かれている。防波堤に打ち碎ける波の飛沫が10mくらい立ち昇る天候ほど、カモメ類などの海鳥が集まる。大型はオオセグロカモメ、セグロカモメ、中型はウミネコ、カモメ、小型はユリカモメが常連であるが、年によって、中型のミツビカモメを見ることもある。群れをなして防波堤に休息していたり、上空を巡回して餌を探し求めていることもある。波が荒くても、晴れた冬の空は澄みきっている。吸い込まれそうな青空を背景にしてカモメ類の舞う姿は幻想的であり、神秘的にも映る。



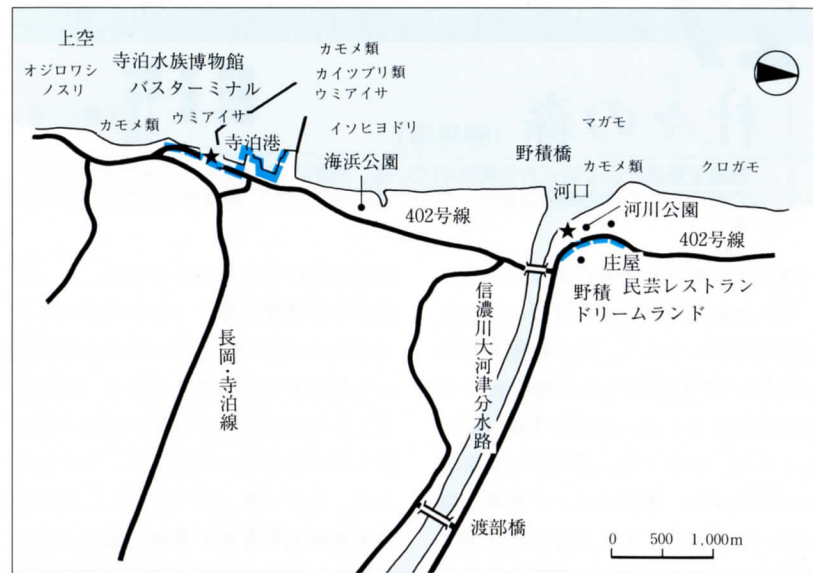
初冬の寺泊港と弥彦山

〈港のある漁業の町にカモメ類が集まる〉

カモメ類は潜行して採餌できず、表層の小魚や浮いている餌をとる鳥である。季節風の吹き荒れる日本海で生きていくためには、漁業の町から出る魚介類のガラを求め、港は避難場として利用しているものと考えられる。近くにある寺泊町水族館で冬季、定時間に浮揚性の餌を与えているのでカモメ類が多く集まる。その時刻に行き合わせると、飛翔時のカモメ類の大きさ、羽色など識別方法を学ぶよい機会となる。試みてはいかがだろう。

〈湾内で潜行を繰り返す海鳥たち〉

カイツブリ類ではカンムリカイツブリやハジロカイツブリが普通で、時に



アカエリカイツブリやミミカイツブリが出現することもある。一目で雌雄の判別できるウミアイサ、雌雄同色のウミウも常連。時にヒメウを目にすることもある。防波堤沿いの海面に注意し、シノリガモを発見すれば幸いである。海鳥の潜水時間を計ってみるのも面白い。

〈新信濃川河口の海ガモを探そう〉

港から北へ2.5kmの所に信濃川分水河口がある。河口にかかる野積橋を渡りきって左折して進むと、ドライブインが立ち並ぶ。その右端から望遠鏡を使って、河口から海岸線に沿って探鳥すると、陸カモの他に、海ガモのクロガモやビロードキンクロの姿を見るこ

とができる。

(渡辺弘雄)

メモ

交通 J R長岡駅よりバス長岡一寺泊線で寺泊大町下車、徒歩5分／J R寺泊駅下車、長岡一寺泊線のバスで寺泊大町下車／J R東三条駅より東三条一分水駅一寺泊線のバスで寺泊車庫下車、徒歩10分。

問い合わせ：越後交通寺泊営業所 ☎0258-75-3142

☐ 港に広い駐車場あり、トイレもあり。探鳥会日本野鳥の会新潟県支部主催の冬季探鳥会が例年2月上旬に実施される。

問い合わせ先：支部事務局

☎02579-2-0907

道草 寺泊港より南500mの所に寺泊水族館がある。